



細江カトリック教会だより



晩夏（8月）

〒750-0016 下関市細江町 1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura>

葉月に思う

猛暑の夏も終わりが近づいた今、あらためて8月という月について思いを巡らす。「葉月」（はづき）と言われるのは、深い緑を見せた木の葉が、次第に落ち始めることから来たと言われる。自然が最も活気を帯び、蝉たちが休むことも知らずに鳴き続ける時、人間は日常の営みをしばし休止し、その存在をしっかりと見つめるためだろうか、日本では、昔から、盆休みを取り、先人たちの歩みに思いを寄せてきた。

それは、ちょうど、広島、長崎の犠牲者を悼み、あの国全体を飲み込んだ戦争の終結を記念し、失われた無数のいのちの尊さを静かに思い起こすときと重なる。78年も経つと、実体験を持つ



人がいよいよ少なくなり、その記憶が薄れていくことを危惧する人もいるが、先人たちの思いをきちんと受け継ぎ、自分たちの経験にしようと、様々な形で発信する若者がいることも忘れてはならない。

「記念し、忘れない」。これは、聖書が読まれる世界、どこでも語り継がれる大事な言葉。人間の知恵と思いを遥かに超える力ある方が行われたことを記念すること。ただ、過ぎ去った昔の事としてではなく、その同じ、力ある方が、今も、わたしたち一人一人の人生に、世界の歩みに、かわり、働いておられることを忘れないこと。人の一生には、そして、人間の歴史には、弱さと愚かさゆえの様々な苦し

み、痛み、悔いがある。しかし、力ある方は、それを罰するのではなく、よい方向に導くことのできる方であることも教えられる。

今、細江教会は、大きな転換点を迎えている。長年親しまれ、愛されてきた聖堂が姿を消し、新しい神の家が誕生しようとしている。そのことに心を騒がせ、不安と不満のうちに日々を送る方もおられる。もう少し、皆が満足できる方法でことを進めることができたかもしれない。しかし、わたしたちは、様々な条件の中で、また、時間の中で、生きて行かねばならない。思い通りことが進まないことを、受け入れることも、神に従う人の道かもしれない。

アブラハムは、75歳にもなって神の声を聞き、行く先も知らずに旅に出た。モーセは、約束の地を目の前にしながら、そこに足を踏み入れることが許され

なかった。わたしたちが、今、多くの方の力を結集して建てようとする聖堂は、天と地を結ぶ「神の家」であり、人々が神に心を開き、神の恵みをいただく尊い場である。先立たれた先輩方と、これから聖堂を訪れるであろう多くの方々を結ぶ、架け橋となる「家」でもある。

家を建てる望みを抱かせ、これまでの心もとない歩みを支えて来られた主が、完成の日まで、導いてくださるよう祈ろう。

作道 宗三 神父

* 萩の花は初夏から咲き始めて晩夏の頃、満開に。

細江教会聖堂のお別れに際して

2023年7月30日(日)のこの日、最後となる現聖堂でのミサ祭儀を終えて、ホールにてささやかなお別れ会が催されました。

短い期間の中をカスタニェーダさんが、玉井氏の協力を得ながら数々の写真資料から編集し製作して下さった映像を通して、教会のその日その時の事を思い起こささせていただきました。細江教会の信徒だけでなく、たくさんの方々感慨深く思いを馳せていたことでしょう。(K)



**ありがとう
ございました**

菊野 清一

今までの教会の1階部分は1956年に新しい教会の仮聖堂として建てられ、2階の新しい聖堂が1968年に完成しました。同年8月11日、野口司教様によって祝別されたと記録されています。

62年前のクリスマスに徳山教会で受洗、その3年後、青年会長やお世話になったシスターたちから涙の見送りを受け、転勤のため徳山駅を後にしました。下関で下車し、山陰線に乗り継ぐ前に細江教会を訪ねました。名前は忘れましたが、背の高いお二人の外国人の神父様から温かい歓迎を受け、一緒に夕食を御馳走になり、神父館に泊めていただきました。小串で一人過ごす筈の夜でした。

勤め先の豊北第一中学校で妻に出会い、クリスマスに誘いました。真夜中、交通の手段のなくなった若者が傍の幼稚園の教室でゲームなどをして賑やかに夜を明かしました。単純

なしりとりゲームのとき、妻が「り」で素早く「リヤカー」と答え、みんなで大笑いしたことを覚えています。農家出の妻には日常のことば、旧市内の若者たちには突拍子もないことばだったようです。

公民館式の結婚式のちょうど一週間前、どうしても心が収まらず、平服のまま教会を訪れ、神父様にその旨を打ち明けました。トーラ神父様はすぐさま幼稚園の河野先生と賄いの方を証人に頼んで婚姻の秘跡を授けてくださいました。出席者は神父様を含めて5人だけでした。

新聖堂が2階になった年、長女が幼児洗礼を受けました。聖水を受け大泣きをしたのを覚えています。

二人の子どもが幼児洗礼を受けたあと、妻が受洗の勉強を始めました。リントホルスト神父様の最初の質問は「何故ですか」だったそうです。「主人が信者だからです」と答えました。

「それは間違っています」と神父様はぴしやり。思いがけないお言葉。主人に従ういい妻と褒められるとばかり思っていた妻は目が覚めたようです。神父様はその後、半年毎週土曜日の午後、対面で指導してくださいました。

豊洋台の自宅を建てる時、「ここに十字架を立てましょう！」と喜んで祝福してくださいました。

県の健康福祉部基礎データ(2023.3.31更新)によれば令和4年の男性の平均寿命は81.05歳だそうです。今年84歳になりました。結婚当初は2週間に1度くらいの頻度で医者通いをしていました。こんなに長く生きていることは奇跡に近いと思います。

私の人生の節目ふしめは教会とともにありました。慣れ親しんだ教会堂がなくなることはありません。それでも今は新しい教会に期待を膨らませています。

神の豊かな恵みが注がれ、信仰の喜びに満ち溢れる新教会を待ち望んでいます。

北部地区

一教会建替えにあたって一

私は先人達が苦勞して建てられたこの教会にお世話になり、半世紀が過ぎました。

この教会でたくさんの人と巡り合い、また多くの人との別れ（故人）もありました。私にとってはとても居心地のいい教会であり、またたくさんの人にお世話になり助けられました。その教会が老朽化し、いよいよ建替えの時がきました。人生100年時代と言いますが、一度は携わらなければならない順番が来た思いです。

先代の玉井さんからこの教会が丸山教会から移る時、土地の購入など、大変苦勞された話をお聞きした事があります。その時代の神父様方がとても根気強くいろんな所に足を運ばれ、やっと手に入れた事など・・・その時代を知る者はいなくなりました。

少子化、人口減少など信者数が少なくなる一方ですが、私たち、年寄りも最後の力を振り絞り、何とか次の世代に引き継ぎたいものです。“主よ、あなたの望まれる教会ができますように。”

中央地区 M. H

てんしファミリーの集いとお別れ会

7月22日（土）に幼稚園にて「てんしファミリーの集い」が行われました。園児や来賓の皆様、卒園児の子どもたちが夏の夕べを楽しみました。コロナ禍ではあらゆる事が制限されていましたが、今年は盆踊りや年長児によるお店屋さんだけでなく、卒園児の保護者の方々にもご協力いただきまして、お食事の提供も行いました。



また、今年は今園舎での最後の開催ということもあり、園舎とのお別れ会も行いました。子どもたちが園舎との思い出や新園舎・仮園舎への期待、建て替えに関わっている方々への安全と感謝をお祈りしました。聖堂でお祈りをしたり、歌を歌ったりするのが好きだったことや、仮園舎ではお母さんの通っていた小学校になることが嬉しいこと、子どもたちの素直な気持ちを皆で分かち合いました。

天使幼稚園 植田先生より

地区だより VI

懐かしい写真

子ども時代の思い出となるものの中に教会で写った写真があります。一枚目は自分の初聖体の写真です。初聖体の前日、学校から急いで帰宅し、教会に行ってお聖体をいただく練習をしました。母は初聖体を迎える私のために洋服を新調してくれましたが、もう一つ嬉しかったのは初聖体の式で白くて長いドレスのような服を着、長いベールをかぶることでした。さて、その写真撮影の場所は現在もある聖堂外の回廊のようなところで、聖堂を背景に初聖体をした子どもたちと神父様、カテキスタの先生方が一緒に映っているものです。神父様はトーラ神父様で（たしか？）、カテキスタの先生は田尾静子先生だったように思います。わたしもその中におり、その写真は手元にはありませんが、子ども時代の大事な思い出として記憶に残っているものです。もっと古い時代のものは、大人と子どものグループが神父様と一緒に聖堂の内陣で撮ったもので、その中に私の父が写っていますので、雰囲気から察すると父の洗礼式の記念写真のようでした。神父様は中山神父様、丸川神父様ではなかったかと思います。細江教会聖堂は四角で、階段を上って内陣に入っていく造りになっていました。クリスマスになると、階段を上り、馬小屋をじっくりと眺めておりました。まだ他にも思い出がありますが、この度、聖堂の建て替えということで過去の過ぎ

た時代から新しい時代への転換期であることを受け入れ、かつ、これからの細江教会の発展を祈りたいと思いました。

サレジアン シスターズ Sr. ルチア上原
細江教会出身



「平和のために祈る」集い・・・8/6



8月6日(日)18時、「原爆慰霊者と核兵器廃絶のため」「世界の難民、移民、特に難民のため」「世界平和のため」に、トアン神父様につき、3教会代表が祈りを捧げました。手作りの横断幕に道行く人々にも良いアピールができたのではないのでしょうか。「愛に生き、平和に生きる」の歌も心を込めて歌いました。閉会后、参加してくれた子どもたちが、シャボン玉を飛ばす傍らで、童心に返ったみんなの笑顔に見送られ、家路につきました。

神様どうか、戦争を終わらせてください！

福永 典子



細江カトリックセンターにて



*8月6日(日)仮聖堂での初めてのミサ

トアン神父、センター裏の道を整える(造る)



*ベランダに続く階段をお一人で製作(上の写真)

*まず、デコボコの道を平らにし、黒の雑草ガードを

引きその上に人工芝を張っていく・・・(右の写真)



ベランダのモッコウバラの日陰では



*ホテイアオイの花

*裏の白いフェンスの上で咲き続けている朝顔

